

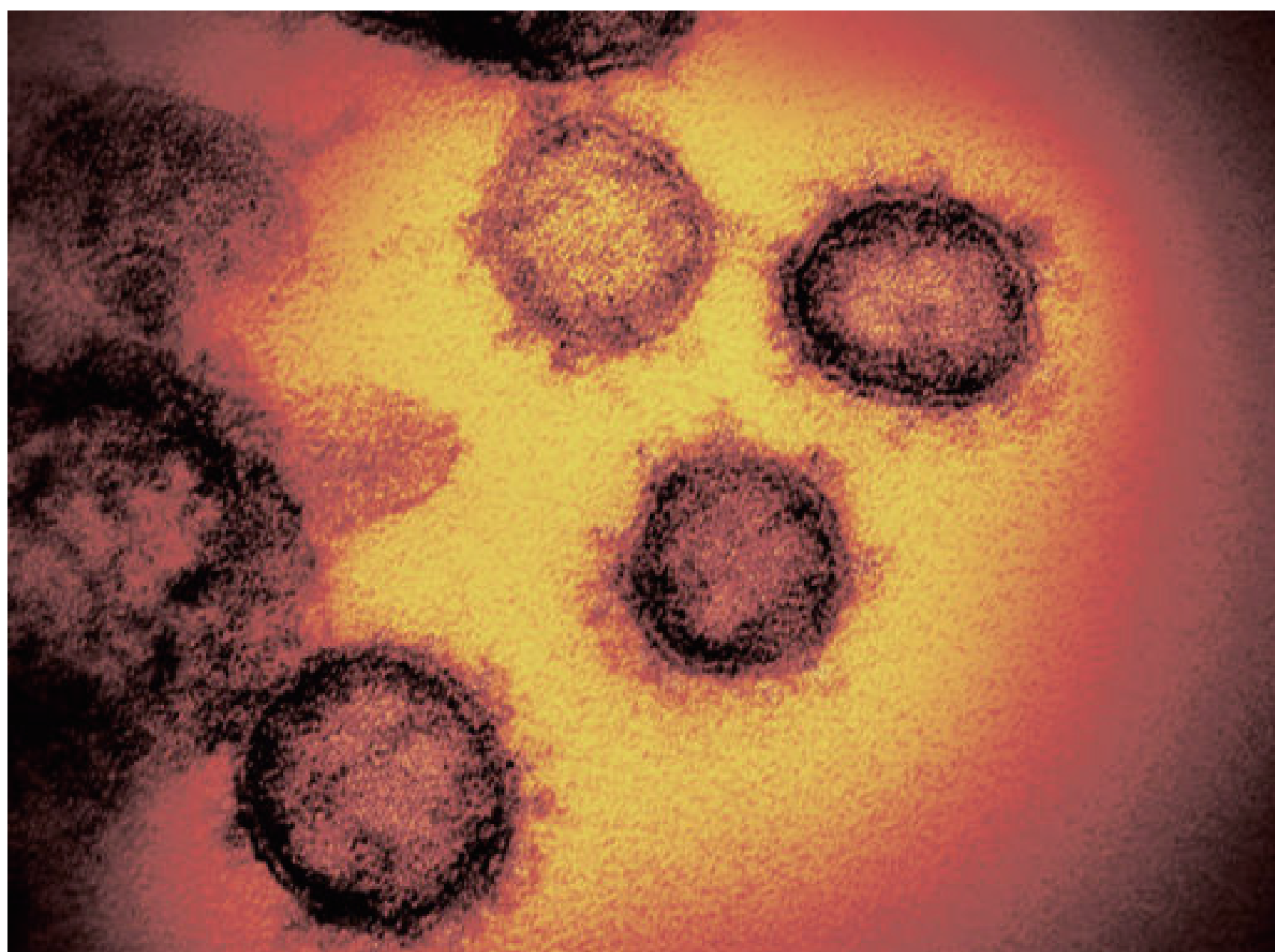
新型コロナウイルス 県内初死者

可児市の70代男性

県は4日、新型コロナウイルスに感染して治療を続けていた可児市に住む70代男性が、同日朝に死亡したと発表した。県内での感染者の死亡は初めて。

男性は、二つの合唱 明した可児市のクラスター(感染者集団)で、最初に感染が確認された。基礎疾患があり、団とスポーツジムで判

初から重症だったため、人工呼吸器を装着して治療していた。70代の妻も重症。
古田肇知事は「衝撃を受けている。あらためて新型コロナウイルス感染症の怖さを感じた。県民には、不要不急の外出自粛や、『3密回避』の徹底をお願いしたい」と話した。



新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真(米国立アレルギー感染症研究所提供)

新型コロナウイルス感染症 中国湖北省武漢で発生し、世界中に広がった新型コロナウイルスによる感染症。日本国内では1月16日に患者が初確認された。3月下旬以降、東京都や大阪府など都市部での感染者が急増しており、各地で病床不足が懸念される。政府は医療提供体制の構築を急いでいる。高齢者や持病のある人が重症化しやすい。無症状や軽症の人も多く、気付かないまま感染を広げて拡大防止を困難にしているとされる。

クラスター 小規模な集団感染や、それによってできた感染者の集団を意味する。新型コロナウイルスによる肺炎は、8割が他の人に感染させないが、一部の人が複数に感染させて拡大している恐れがある。クラスターが次のクラスターを生み出すという感染の連鎖が各地で起きると、感染者が爆発的に増えるため、政府はクラスターの発生防止が極めて重要と位置づけている。厚生労働省は2月下旬、クラスターが発生した自治体に専門家を派遣し、対策を検討する「クラスター対策班」を設置した。